

総務文教委員会会議録

平成23年4月8日 9時57分 開会
10時37分 閉会

網走市議会

午前9時57分 開会

○小田部委員長

おはようございます。

正副委員長のもとにおいて、急遽、執行部と相談して委員会の開催をさせていただきました。御出席に感謝を申し上げます。

本日、網走タイムズ社の今村記者が傍聴を求めています。これを許してよろしいですね。

(「はい」の声あり)

○小田部委員長

それでは、早速議事に入ります。

一つ、平成22年度一般会計補正予算に係る専決処分について、説明を求めます。

○猪股総務課長

平成22年度一般会計補正予算の専決処分について御報告をいたします。

資料1号をごらん願います。

初めに、総務課所管分であります。市内の避難施設にラジオつき懐中電灯を整備するための避難施設備品整備事業につきまして、予定していた備品が震災の影響で入手困難となり、納品が6月になる見込みとなりましたので、これにかかる予算146万5,000円、全額を繰り越すこととし、3月30日に専決処分を行いましたので、御報告いたします。

○小田部委員長

本件について、何か御発言ございますか。ありませんね。

(「なし」の声あり)

○小田部委員長

それでは、続きまして、同じく渡邊管理課長、説明をお願いします。

○渡邊管理課長

それでは、管理課所管分の専決処分について御報告申し上げます。

資料1号にかかわりますが、西小学校の特別支援学級にトイレとシャワー設備を設置するために3月議会で補正予算を議決いただきましたけれども、その後の東日本大震災により、シャワー設備等、一部の建築資材が入手困難となりまして、工事の完成が6月にずれ込む見込みとなりました。したがって、これにかかる予算350万円、全額を繰越明許費としまして、平成22年度から23年度に繰り越しすべく、3月30日に専決処分を行いましたので、御報告申し上げます。

○小田部委員長

御発言、御意見ございませんか。

(「なし」の声あり)

○小田部委員長

それでは、ただいまの専決処分については、皆さんに御報告、御了解いただいたということといたします。

なお、本日の委員会において、その他の事項もございしますが、委員の皆さんの御了解をいただければ、教育長、学校教育部長、管理課長が、業務、所用のため、この場から退席をさせていただきます。よろしいか、お伺いします。よろしいですね。

(「はい」の声あり)

○小田部委員長

それでは、退席を許可します。

それでは、続いて東日本大震災被災地への支援状況についてを議題とし、川田企画総務部長の説明をお願いします。

○川田企画総務部長

それでは私のほうから、東日本大震災被災地への支援状況について御説明を申し上げます。

去る3月11日に発生した三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震につきましては、既に連日の報道により皆様御承知のとおりでございますが、この地震による東日本大震災に対する市のこれまでの取り組み状況並びに今後の取り組み状況について御説明をしたいというふうに思います。

市では、3月17日に、市長を本部長とする網走市東北地方太平洋沖地震災害救援本部を設置いたしまして、被災地の支援体制をとったところでございます。

この組織につきましては、お配りしております組織図のとおりでございますが、避難されてくる方の住宅や教育などの受け入れに関する事項を担当する受け入れ対策班、それから、ボランティアや職員派遣を担当する災害対策班、義援金や物資受付を担当する義援金等受付班、総括担当の総務班、この4班体制で支援活動を行うこととしてございます。

初めに、義援金の状況についてでございますが、3月14日から日赤の受付窓口を開設いたしまして、あわせて市役所などの市の施設4カ所に募金箱を設置いたしました。街頭募金につきましても、これまで4カ所で6日間、延べ181名により

実施していただいたところでございます。

この結果、4月7日現在、寄附が253件、5,994万円、街頭募金が180万円、募金箱が85万円、総額では6,259万円となっております。

なお、市の義援金につきましては、第1回定例会最終日の補正予算の御決定をいただき、取り急ぎ日赤北海道支部に100万円をお送りしております。

次に、救援物資についてでございますが、3月22日から26日までの5日間にわたり、物資を限定した中で、市民の皆様から救援物資の第1次受付を行いましたところ、約700名の方から、タオル約1万枚を初め、紙おむつなどが1万1,000枚、マスク1万4,000枚など、想像を超える量の物資の御提供をいただきました。

皆様からお預かりいたしました物資につきましては、ボランティアの方の御協力をいただき、陸上自衛隊美幌駐屯地に引き渡しを行い、被災地へは陸上自衛隊により搬送されております。

今後につきましては、被災地の状況が日々変化していく中で、必要とされる物資も変わってきておりますので、状況を見ながら第2次以降の対応を検討していきたいというふうに考えていますが、その中で、飲料水につきましては、水道施設の損壊による水不足に加え、原発の問題もありますので、安全な水が求められている状況にありますので、4月4日から2リットルのペットボトルの飲料水の製造を開始しております。

加熱滅菌した網走の天然水は硬度が低い軟水のため、乳幼児のミルクにも適しておりますので、広く利用できるものですが、製造能力や容器等の問題もありますので、とりあえず1万本を製造することを目指して、現在作業を行っているところでございます。

この製造に当たりましては、ペットボトルのラベル貼り等に市民の皆様ボランティアの御協力をいただいております。来週の月曜日から4日間、延べ32名の方に御協力をいただくこととなっております。

次に、被災者の受け入れについてでございますが、被災地から避難されてくる方につきましては、現在、市営住宅5戸を用意しているほか、向陽ヶ丘にあります雇用促進住宅74戸につきましても、雇用促進協会から御提供いただけるということで、手配をしております。このほか、道営住宅

につきましても4戸用意されているというふうに聞いております。

実際のこれまでの避難者についてですが、これまで市内にも親類などを頼って被災地から来られている方がいるようではありますが、市では学校でありますとか保育園の関係などで手続をされた方については確認できるところでございますが、それ以外についてはなかなか確認ができないという状況にあります。

現在まで、市で確認している中では、福島県から1家族5名、宮城県から2家族6名の方がそれぞれ網走の御実家に避難されてきておまして、このほかに、宮城県から出産のために網走の御実家に戻られている方がいらっしゃいます。このうち、福島県から避難されてきた方につきましては、お仕事の関係もあり、先日、埼玉のほうに転居されております。このほか、東京農大の生物産業学部をこの3月に卒業した岩手県大槌町出身の男子学生が、実家の倒壊、それと入社予定であった会社の倒壊ということが重なりまして、帰郷することが困難ということで、農大からも相談を受けまして、急遽、市では、3月24日から市の臨時職員として働いていただいておりますが、急遽、地元の御親戚のもとに移られるということで、来週月曜日に網走を離れることになっております。

次に、職員の派遣についてでございますが、緊急消防援助隊北海道隊の第6次派遣の一員として、3月28日から4月3日の日程で、網走地区消防組合の職員2名を派遣し、後方支援隊として宮城県の石巻市で救援活動を行ったところであります。このほか、被災地の市町村では、役場や職員自体の被災に加え、避難所の管理や救援物資の仕分け、罹災証明の発行、水道や道路の復旧など、膨大な業務量がありますことから、他の自治体に対して、短期、長期の応援職員の派遣について全国市長会から要請がありましたので、市では短期派遣として、現在、4名の職員を派遣することで登録をいたしました。

続きまして、被災地への炊き出し支援についてでございます。これはお配りしている資料をごらんいただきたいと存じます。

地元網走の調理師会の有志の皆様から、被災地の方にボランティアで温かい食事の炊き出しをしたいという強い希望がございました。

そこで、調理師会網走支部と社交飲食業組合の皆さんを中心に、市と社会福祉協議会、観光協会、調理師会の堀口さんを委員長とする実行委員会を組織いたしまして、来週の15日から被災地への炊き出しを行い、あわせて物資の提供を行うことといたしました。

支援の内容は、避難所等での炊き出し及び網走の天然水2リットルのペットボトル1,000本、ビート黒糖菓子1,500袋の提供でございます。

派遣先につきましては、捕鯨基地としてゆかりのある宮城県の石巻市のほか、今回の震災で大きな被害を受けている岩手県の大船渡市としております。

日程でございますが、4月15日にこちらを出発いたしまして、苫小牧港からフェリーを使い、翌16日に仙台港到着、石巻に移動して炊き出しを行い、終了後、北上市に移動して宿泊、17日に大船渡市で炊き出しを行った後、18日に仙台港から北海道に戻り、19日に網走到着という予定となっております。

派遣人員は、今現在の予定では、調理師会網走支部などの会員の方が10名、協力企業、いわゆる車両の運転手の方が3名、市職員5名、社会福祉協議会の職員2名、観光協会加盟企業の職員2名の総勢22名を予定しております。

現地までは中型のバスを利用いたしまして、食材や物資輸送用として貨物自動車2台を用意しております。

炊き出しの内容としましては、網走ザンギ丼が1,500食、モヨロ汁が1,500食の予定となっております。

この実施に当たりましては、車両や食材、資材の提供などに市内多くの企業の方の御協力をいただいているところでありますが、燃料費や交通費などにかかる経費につきましては市で負担をすることとしており、およそ170万円ほどが見込まれるところでございますが、当面は現計予算の中で対応させていただきたいというふうに考えております。

次に、現時点でのこのほかの動きについてでございますが、オホーツク管内の市町村が合同で被災地に対して支援をできないかということで、現在、その方法でありますとか内容の検討がされております。今後、調整が行われることとなっておりますので、決定された際には当市としても積極

的に協力、参加していきたいというふうに考えております。

私のほうからは以上です。

○小田部委員長

ただいま部長から説明をいただきましたが、この間、道新の谷本雄也さんから傍聴の申し出がありましたので、委員長のもとにおいて許可をいたしましたので、御了承願います。

それでは、皆さんの御意見をいただきます。

○山田委員

前回の総務文教委員会でも急遽お話をさせていただきました。議会最終日、市長からも話をいただく中で、オール日本で対応しなければならないのはもちろんですが、オール網走という視点で、市長からも市民に対してメッセージをいただいたのですけれども、今、中身、るるお聞かせをいただきまして、それぞれ救援本部を設置をして対応していただいていると、こういうふうに思っています。

それで、前回のときも言ったように、ホームページ等も含めて、市民にはるる情報を開示して提供しているのだと思いますから、いろいろな機会、機関を使って、市民の皆さんはやっぱり何かしたい、こういう思いというのは非常に強いというふうに思っていますから、市がリーダーシップを発揮してやっているということの姿勢もやっぱり明らかにするということも含めて、ぜひ広報関係についてはしっかり対応していただきたいなと、こんなふうに思っています。

それで、いろいろ炊き出しの関係も支援もいただきました。市民の皆さんの紙おむつやタオル、いろいろな部分も本当に御協力いただいていると思いますし、これは過渡的な課題なのかもしれませんし、今後またいろいろなことが出てくると思いますから、ぜひ日常の業務をしながら、このほうにもかかわっていかなければならない、市の職員の皆さんに大変御苦勞をかけるわけですが、ぜひやっぱり頑張ってくださいことをお願いしたいというふうに思います。

それで、ちょっと1点だけなのですが、先ほど川田企画総務部長から言われたように、広域の連携、ぜひ単独の市でやるよりはいろいろなことができる可能性が出てきますから、ぜひ部長からいただいたように、積極的にかかわるということを含めて、核になるような気持ちも含めてお願いを

しておきたいというふうに思います。

それと、当面ということで、市としては、皆さんの税金にはなるわけですが、100万円を一応義援金として送ってきている経過がございますが、いろいろ情勢を見ていると、金額が多ければいいというわけではありませんが、またこれは再考していかなければならない状況というのは一つあるのかなということをお自身思っているのですが、今後に向けて、何か今の部分でコメントがあれば、その辺も含めてちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○大澤副市長

義援金、補正予算を組ませていただきまして、100万円、他自治体に先駆けて早い義援金をして、既に送らせていただきました。その後、他の自治体におきまして、それぞれ義援金が確定して新聞等では報道されております。

今、企画総務部長からお話ししましたとおり、その金額は金額として、別な形での支援の対策というのは今御説明させていただいたとおりでありますし、今後も長いそういった活動というのは必要になってくるというふうに思っています。

100万円につきましては日赤を通してお送りするというでありますし、今後におきましては、今、委員からお話あったとおり、金額的なことについては、今度、県のほうに何らかの義援金といいたいでしょうか、そういったことは今、市長とも相談をしているところで、今ここでどの時期に何ぼということとは言えませんが、そういうことも一応念頭に置いているということだけお話をさせていただきたいと思います。

○山田委員

今、副市長からお話いただいたように、今回の炊き出しの支援でも、燃料や交通費含めると約170万円ですか、いろいろな裾野を考えますと、金額ではありませんが、いろいろやっぱり支援していくということにももちろんなるわけで、今、副市長からいただいたように、今後の課題として受けとめていただきたいと思います。

それと、民間あたりでは、それぞれの、例えばトラックでいいますとトラック協会とか、土建業でいえば土建関係の部分も含めて、いろいろ縦でこれから支援が出てくるというふうには思っていますし、葬儀社関係についてはもう既に網走からも行っている状況が一つありまして、行政ですべ

て掌握できないと、もちろん難しさはありますけれども、民間が縦でいろいろ対応して支援をしているという状況もできる限り掌握できればしていただいて、網走市でいろいろな部分でかかわっているということも把握をしていただくことをちょっと要望として最後述べさせていただきたいと思います。

○飯田委員

先ほど企画総務部長のほうから、網走に一時的に避難といいますか、手続で確認と。私どもも地域を回る中で、いわば放射能の関係で、仙台、宮城なのですけれども、福島に近いところ、それから福島から、一時的に、3月の春休みにありまして、恐らく就学前の子供たちが来ていたということに出くわしたのですけれども、一時的な避難なのか、一たん入所手続だとか、学校も、結果的に小さい子だけ連れてきて、また置いてくるということがあったので、網走市としては、こういうような手続がありますよと、保育所については入所手続、学校についてはということがあったので、今後、網走市のほうで、そういうような手続なりが明確になるならば、恐らく放射能の関係がかなり大変だというような認識が強かったようです。ただ、そこの来ていたところは、お孫さんだったので、2世帯が来ていたのですけれども、そういう手続がわからなくて、なかなかそれを知り得るのは大変なのですけれども、今後、広報なり町内会なりを通じて実態把握する方法も私はあると思うので、一つの家族は入学手続なりそういうことで一たん帰ったけれども、放射能の被害が今のような状況がかなり続けば、そういうことも考えられるということだったので、それも含めて、それらへの対応が今後私は課題になってくると思います。その辺の状況把握と周知をお願いしたいところです。

○岡本委員

今回の被災に関しまして、網走市の取り組みといますか対応といますか、俊敏な、網走なりにも救援本部等々の立ち上げも含めて、あるいは義援金についても、やはり他の自治体と比較をしても早い対応をされてきたというふうには私は思っておりますし、また、今回示されたボランティアによる炊き出し、物資の提供等々含めて、すばらしい民間も意識を持ってそういったことをされるというふうなことの報告ですので、極めて喜ばし

いことであるというふうに受けとめております。

今後、被災地の状況というのは、やはり段階的に来ているのかなというふうに思います。当初の段階では、やはり被災されている人の避難地に何もものが届かないというふうな状況から、水、水というふうなことも報道されてきて、そういった食料、あるいは物資も一定程度行き渡りかけてきている状況もあると思いますし、今後、段階を経ながら、どういう支援のあり方がいいのかということが、やはりそういった場合の的を得た支援方法であるべきと考えます。

ですから、今後また十分に市としても対応をできるところからしていくべきだというふうに思いますし、ただ、きょう示された中での今回の民間での炊き出し、当然、市の職員も加わっていますし、共同作業になると思いますけれども、それで1点だけお聞きしたいのは、当然、物資といいますが食料、生活物資等々を搬送してフェリーで持っていく。いわゆる北海道エルピーガス協会の支援については、いわゆるガス等々も持っていくということによろしいか。

○大澤副市長

被災地の現状を見れば、こういった支援活動は基本的には自己完結型で行わなければ、逆に相手方に迷惑をかけるということが想定されますので、基本的にはすべてこちらから必要なものは持って行って、炊き出しをして、ごみ等も全部持ち帰るというのを基本にしております。

○岡本委員

今回の被災自治体は、国家レベルで非常事態宣言か何かすることによって、現場でいろいろな判断ができると思いますし、法を超えて対応ができるというふうなことが道の認識の中にはあるのですが、今のトップが非常事態宣言をしていないわけですから、例えばヘリコプターから、ニュースを見ていると、途中で落とせない、要するに着陸しないものをおろせないという状況が報道などを見ていると実はあるわけで、端的に今、ガスのことを言ったわけですけれども、船にボンベを積んで運ぶということが、許可自体が大丈夫なのか、安全性ということを含めて、そこら辺のハードルを超えられたのかどうか。

○大澤副市長

いろいろなものを持っていかないとなりません。今、委員おっしゃるとおり、ガスボンベもそ

うですけれども、そういったことにつきましては、太平洋フェリーを使うことになっているのですけれども、そこを協議をして、こちらから運びますということについては話を進めておりますので、そういう形でやっていきたいと思っております。

○岡本委員

了解しました。

○小西委員

今、3人の委員からそれぞれお話がございましたが、本当に今回の市のいち早い救援本部の設置等を初め、市民の心の温かさは、恐らく全国からそのような支援というのが数多くされている中でも、被災地、あるいは被災者の皆様に非常に喜んでもらえるというふうに思っていますが、1点だけ、私もちょっと確認したいのが、受け入れ問題で、先ほど部長から、市営住宅を初め合わせて84戸の受け入れというような話がありました。これは当然、こちらのほうのどこかでまとめて、そのようなことは被災者、罹災者の皆さんに伝達はされてはいるのですが、市のホームページとか、そこら辺でのそういうような周知というのは、それはもう既にやっているのですか。

○猪股総務課長

先ほどの市営住宅、それから雇用促進住宅、道営住宅の関係につきましては、市のホームページにも掲載しておりますし、あわせて道のほうに報告をしておりますので、北海道のホームページにも掲載されております。あわせて、北海道のほうから被災された県のほうにその旨通知はされております。

○高橋副委員長

これは質問でもありませんけれども、今、世界中が協力して、悲しんでおります。これはさらに個人的においても、今、資材ですとか、乾電池がなくなってきているですとか、そういったことを考えますと、買い占めですとか、節電に少しでも努めるとか、そういったことがやはり考えるいい機会になったかなと、私自身もそんなふうに思います。何かの機会にこういったことも周知していただければなど、そんな感じしております。

以上です。

○飯田委員

せっかく委員会ですから、網走の支援だけでなく、網走市の現状、特に観光の状況、多分調査

なさっていると思います。それから商工業への影響。特にホテル関係は、リフォームだとかそういうことで休業しているのですけれども、実は実態は大手の鶴雅グループでさえ1館を休むだとか、知床のホテルも休むというようなことがあります。私どものルートで調べた限りでは、このままでいけば従業員の一時解雇なりということもあります。特に雇用関係については、島田建設もあります。その辺の状況をどう把握して、今後どのような方向を市としては今の時点で持っているのか、まずちょっと1点お聞きしたいと思います。

○大澤副市長

震災による地元経済への影響ということについては、先般、きのう、おととい、関係する部課長を集めて緊急的な会議を開きました。

それで、共通の現状の認識と今後の対応、対策をどうするかということで協議をしたわけでありまして、今、委員からお話ありましたとおり、各分野のところでの報告等があったわけですが、特に観光面が、3月28日の時点で、網走市のホテル全体で5,500名程度のキャンセルが出ているという状況でございます。インバウンドについてはほとんど皆無という状況であります。各ホテルからの聞き取りでありますけれども、行政に対してどういった支援を求めたいのかということも含めて、今いろいろとお話を聞いているところでございます。

唯一、道内の道央圏からの宿泊旅行が東北のほうに行っているわけでありまして、こうした状況の中で、道東のほうに目を向けているという情報もありまして、たしか昨日、東観協、ひがし北海道観光事業開発協議会ですが、こちらのほうで急遽会議を開いて、全体としてその辺の情報交換と、道央圏、道南圏に対する営業といたしましょうか、その辺のところの戦略を検討したというふう聞いております。

非常に厳しい観光業界、ホテル業界でございますので、今後さらに情報をとりながら、どういった形での対策、対応が必要なのか、さらに検討してまいりたいというふうに思っております。

それから、水産関係でいえば、水揚げが3月11日から沖底船を初め漁が始まっているわけでありまして、水揚げ自体も昨年よりは減少しているという状況がありますが、なかなか流通が、中国へのキンキ、ウニ等の輸出もとまっておりますし、

韓国へのスケソウダラの輸出も休止をしているという状況でございます、水産業界にも影響も出始めているという状況でございます。

それから、建設、建築関係ですが、なかなか必要な資材が、今、滞っているという状況で、そういったところでの支障が出ているというふうに聞いております。

それから、もちろん飲食、小売の関係でも消費全体が低迷しているというような状況でございます、そういったことで、先般、関係部課長会議で協議をいたしまして、さらにいろいろ工夫しながら、これからどういった形での対策が必要なのか、そのことによる補正予算が必要なのか、その辺のところはさらに詰めていきたいというふうに思っております。

○飯田委員

私たち、今の議員の選挙はあるのですけれども、任期は4月30日まであります。それであるならば、ここは総務文教委員会で総括的なことをやるのですけれども、関係委員会、生活福祉なり経済建設もありますので、そういうところのある程度の細かな説明も私は必要だと思います。

特に選挙関係をやったりしますと、インクが入ってこないとか、さまざまな情報がありまして、特にインクの場合は、福島県沖にインクの原料となるタンクが流されたり、メーカーの工場があの近辺にあったということがあります。

そういう状況からすると、非常に被災地支援するかたわら、やはり網走にも、何もないようなことでも、かなりボディブローとして効いてきます、現在のところ。

特にホテル関係については、思った以上に、今言ったみたく、4月に入ってからひどいですし、きのうもたまたま小清水のほうの方から、風評被害というのですか、特に中国人の企業に研修に来ている方が全部帰ったなどということで、本当かということ、私もある程度確認したら、それは全くのデマだったというようなことで、そういうことが網走市も、帰ったということは、要するに中国から来る方だとか、台湾、そういうところから来る方にも影響が私はあると思うので、その辺も含めて、私は行政としてなし得るきめ細かな対応をしていかなければならないと。必要であれば、各委員会がありますので、その中で報告しながら、対策を周知して意見を求めるというような

こともやっていただきたいなと思います。

○小田部委員長

ただいまの答弁、説明の前に、この場は総務文教委員会ですから、委員長のもとできょうの委員会を開かせていただきました。きょうはたまたま議長も所用の中、こうやって出席してくれていますので、本件は総務文教委員会においてでなくて、議長にひとつそういうふうな認識、対応が必要であればということで、この点につきましては委員長に仕切らせていただきます。

○飯田委員

最終的にそういう議会対応をしていくのかどうか。

○小田部委員長

対応だけね。

○大澤副市長

先ほど御説明したとおり、当市への影響というのは少なからず出てきておりますので、さらに情報をとりながら、どういった対応ができるのかということについて検討し、予算関係が出てくれば、それは当然議会のほうにも御説明しながら対応するという形になると思います。

○小田部委員長

他にありませんね。

前回の総務文教委員会でも各委員の皆さんの意見をいただきながら、委員会として執行部に、適切に、しかも適宜に対応するように、こういうふうな委員の総意をもって執行部にお願い、要請をしてきたところですが、その結果報告をいただきましたし、これは必ずしも被災地向けだけではなくて、飯田委員が話されたように、網走市の内外に向けた極めて大事な対応がこれからますます出てくると、このように思います。

今説明あったように、産業だとか、あるいは経済活動だとか、当然のこととして市民活動や市民生活に、物価も含めて、いろいろな影響が今後出てくる、そんなことを懸念されての発言もあったかに思います。

しかし、どこまでいっても、やっぱり我々は議会ですから、そういったことを要請しながら、執行権の範囲の中で、柔軟に、臨機に、ひとつこの時局を健全に乗り切っていただきたい、このことを総務文教委員会の名において執行部にお願いをして、本件は、発言がなければこれで閉じたいと、このように思います。よろしいですね。

(「はい」の声あり)

○小田部委員長

それでは、理事者の皆さんから何か御発言がございますか。

(「ありません」の声あり)

○小田部委員長

委員の皆さん。

(「ありません」の声あり)

○小田部委員長

なければ、以上をもって、総務文教委員会を閉じさせていただきます。

御苦労さまでした。

午前10時37分 閉会